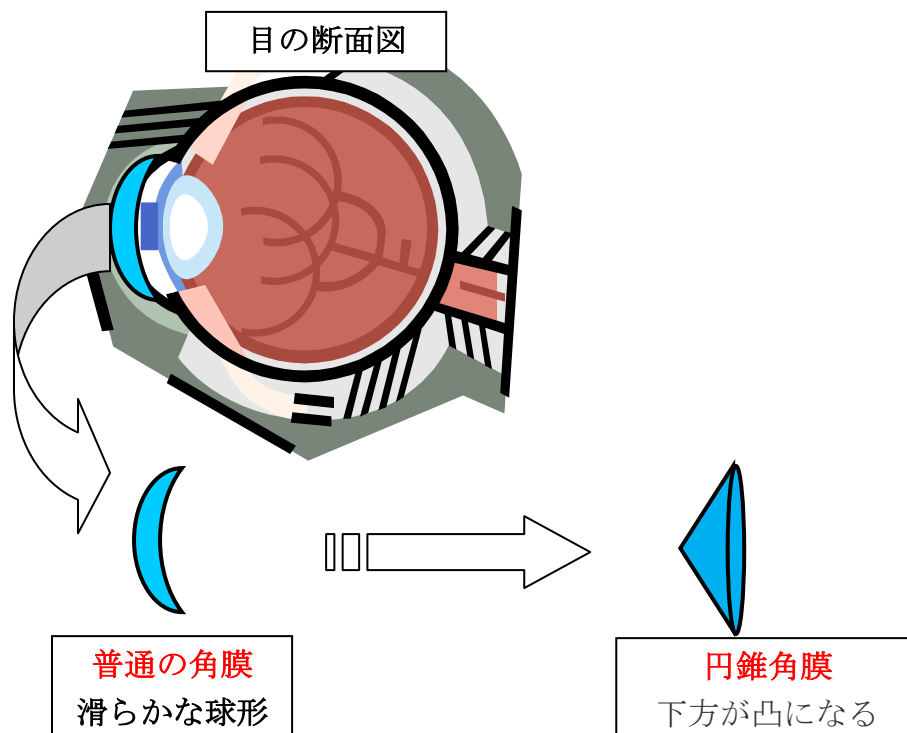


円錐角膜（えんすいかくまく）

1. 円錐角膜とは

円錐角膜は、角膜が薄くなって角膜の形が球形ではなく下方が凸になって出てくる病気です。多くの場合 20 歳前後で発症します。アトピー体質などがあり、目をよく擦ることが誘引とされています。



2. 円錐角膜の診断

円錐角膜と診断された場合には、角膜のカーブの値や、円錐の形の状態、角膜の厚さによって、重症かどうか判断されます。

角膜形状解析装置により、角膜の診断が容易にできます。乱視が強い方は円錐角膜が隠れていることがありますので角膜の検査をお勧めします。



3. 円錐角膜の経過

多くの場合 30 歳前後で進行が止まるといわれていますが、40 歳、50 歳になって急激に進行する場合もあります。

4. 円錐角膜の予後

病気が進行して、角膜の突出が強くなり、角膜に濁りが生じると見え方にゆがみが生じます。

- ・角膜に浮腫（腫れ）がおこって突然視力が低下することもあります。

（この角膜の腫れは角膜が円錐状に突出することによって、角膜の内面にある弾性繊維の膜に小さい裂け目が生じておこります）



この角膜の腫れは数週間から数ヶ月間続きますが、裂け目が修復されると徐々に瘢痕組織に置き換わります。

5. 円錐角膜の治療

ハードコンタクトレンズ（以下 HCL）装用によりある程度の進行を抑えることができます。また円錐角膜の目は乱視が強くメガネでは視力が出にくいこともあります。



HCL は乱視の矯正にも優れているため、適正なコンタクト処方によりメガネで視力が出にくい方も視力が出る場合があります。

通常の HCL では円錐角膜の初期に対して対応できますが、円錐角膜が中等度、高度になりますと対応できないため角膜移植術（手術）の適応となります。